

とことんやろう！

材料もとめて自分で開拓、
地域のコミュニティは子どもが創る！



小部屋づくりの材料となる角材あつめに奔走する2人。学校の近所にある工務店を探して余っている木材をもらう計画だ。しかし「うちは木が余らないから」と断られることも。めげずに、そして相変わらず勤を頼りに近所を探す子どもたちは、スポーツの時間に一度通った公園を越えて、とうとう運命の工務店にたどり着く。社長は不在だったが、次週直接話をさせてもらう約束をとりつけた。それまでの間、テーマ学習で使った“上手な質問のこつ”を再活用し、礼儀正しいあいさつや、自分たちがやろうとしていることの説明など、必要な言葉を考え、設計図も新しく作り直すなど準備万端でその時を待つ。

店の前でうろちよろした後、意を決して突入。「まってたよ」とひくい声で社長さんがお出迎え。あいさつをした後、いよいよ質問シートにそって相談をはじめ。技術的なアドバイスをもらった上に、必要な木材を「用意しておいてやるよ」と言われ、さらには「若い人があんまり大工になりたがらないんだ。将来は君たち大工になったら？」という言葉に、「うん」とうなずく子どもたち。「これおみやげです」子どもが家から持ってきたみかんを社長に手渡してお互いにんまり。言いたいことが伝わり、無事に計画をすすめることができた2人は、うれしさをこらえきれず帰り道の公園で「喜びの舞」を踊ってスクールへもどった。

